

JST さくらサイエンスプログラム(海外生徒招へい事業)の活動報告

インド・City Montessori School Gomutinagar Campus II（以下 CMS）とオーストラリア・マレニー州立高校の生徒・先生合計 8 名が来校し、本校生徒との科学交流プログラムを実施しました。

今回の招へいの目的は、北海道大学、酪農学園大学での先端研究学習と SSH 重点枠「北海道国際ナショナルサイエンスフェア（以下 HISF）」での共同発表です。

インド CMS の生徒とは本校の SSH 重点枠事業「国際共同研究アカデミー」で本校及び国内連携校の生徒と 2024 年 4 月から共同課題研究を行った生徒を招へいしました。

また、オーストラリア マレニー州立高校とは、2018年から交流を続けており、本校の探究の時間である FVII で「Sustainable Future Earth」プログラムとして身の回りの野生生物保護をテーマにオンラインで交流を実施しました。加えて SSH 重点枠「オーストラリア海外研修」で 2024 年 12 月に学校訪問を行い現地での科学交流プログラムを行いました。

両校の生徒とも、来日前に本校生徒と共同研究を行ってきました。その成果を HISF で共同発表することが今回の招へいの大きな目的です。

2月3日(月)

インド CMS の生徒が学校に到着し、ホストファミリーと対面しました。

オーストラリアマレニー州立高校の到着は夜遅くだったためこの日はホテルで宿泊となりました。

2月4日(火)

本日から交流プログラムを開始しました。

午前中は本校の生徒と一緒に授業を受けたり、日本の文化を体験（風呂敷）したりしました。

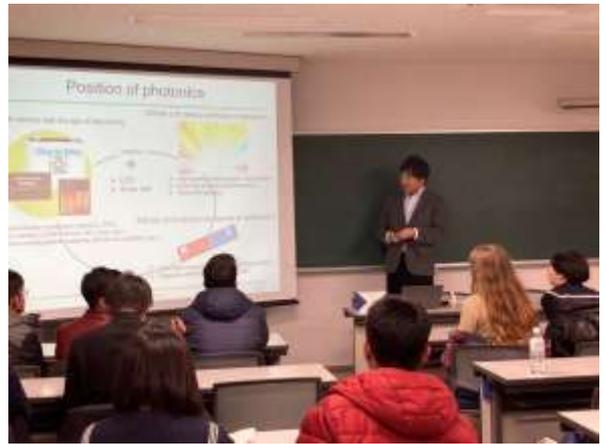
午後は酪農学園大学 立木 靖之准教授にお越しいただき、森林保護、野生動物の保護について本校に隣接する野幌森林公園を実際に歩きながら講義していただきました。来日した生徒や先生達ははじめての雪や冬の森林、雪に残された足跡などを観察し目を輝かせていました。



2月5日(水)

ホストファミリーの生徒と一緒に北海道大学を訪問しました。

午前中は北海道大学大学院理学研究院 上野 貢生教授の研究室を訪問し、光化学の最先端の研究について講義を受け、研究室で実験機器が稼働しているところを見せていただきました。



午後は北海道大学総合博物館を訪問し、北野一平助教にレクチャーを受けながら、様々な分野の展示物について学習し理解を深めました。



2月6日(木)

本校の HISF 1 日目「サイエンスチャレンジ」に参加しました。決められた材料を使い、8メートル先の的に向かってお手玉を飛ばす投射機を作製し、その正確さを競いました。招へい生徒達は北海道内の様々な参加校の生徒とグループを作り、英語でコミュニケーションをとりながら思考錯誤し、それぞれのアイデアを活かした投射機を完成させました。

競技終了後、本校生とオーストラリア マレニーの生徒による「野生生物の保護と共生についての共同発表」、本校生徒とインド CMS の生徒による「イオン風とイオンクラフト」についての国際共同課題研究の発表を行いました。



2月7日(金)

HISF 2日目「ポスターセッション」に参加しました。招へい生徒自身の課題研究(オーストラリアマレニー「オピオビクリークに生息するカモノハシの保護活動」、インド CMS「身の周りのプラスチック製品を植物由来の素材に置き換える」



「自然エネルギーを利用した新たな発電方法の模索」を発表するだけでなく、北海道内の様々な高校の生徒の英語でのプレゼンテーションを聞き、ディスカッションを行いました。午後からはパネルディスカッションに参加し、インド CMS の生徒が高校生が行う共同研究についての意義や実際に行った際の課題やその乗り越え方について、本校の共同研究者と一緒にコメントしました。



2月8日(土)

ホストファミリーの生徒と札幌市青少年科学館を訪問しました。体験型の科学展示を本校の生徒と一緒に学習し満喫しました。午後からはホストファミリーと札幌市内を散策し交流を深めました。

2月9日(日)

早朝から旅行者でごった返す新千歳空港から北海道を飛び、インド、オーストラリアの招へい者全員は羽田空港から出国し無事帰国の途につきました。

招へいた生徒、先生方、啓成高校の生徒にとっても非常に濃密な1週間となりました。科学交流、文化交流を通じて、お互いを身近な友人に感じ、多文化共生を考える良いきっかけになったと思います。このような貴重な機会を与えてくださった JST さくらサイエンスプログラムに心より感謝申し上げます。